

SOULS(オンライン学習支援システム)を活用した授業づくり

－「学び」の再構築を目指して－

高知大学人文学部 教授 村端五郎

Murahata@cc.kochi-u.ac.jp

キーワード：学び、関わり合い、授業外学習

1. 背景(1)：大学教育が抱える課題

社会潮流の変化による入学生の変質や大学制度に内包する本質的な課題により、現在、大学教育は、大学全入時代の到来(2007年度問題、進学希望者数と合格者総数が同数になる)、授業外学習時間の減少、基礎学力の低下、コミュニケーション能力の低下、授業参加意識の低下、単位制度の形骸化など、様々な問題に直面している。

中でも、学生の「学び」をどのように取り戻すか、再構築するかが重要な課題の1つとなっている。

2. 背景(2)：高知大学の情報環境

(1) 全学ノートパソコン必携

高知大学では、平成9年度から理系・文系を問わず全学PC必携と独自の教科書による情報教育が始まった。現在、学内には、情報コンセントが1,900口、ほぼすべての教室にスクリーンとプロジェクタ(一部可搬式)が設置され、大学公認の学生による情報化支援組織「S・O・S」を立ち上げてトラブルシューティングへの対応を行ってきた。しかし、プレゼン能力の飛躍的な向上など、一定の成果はできているものの、学究生活における日常的な利用、特に専門教育等における「学び」に活かすという点では必ずしも十分とは言えなかった。

(2) 人文学部の取り組み

A：SOULS(System for Online University Learning Support)の導入 <http://souls.cc.kochi-u.ac.jp/>

「オンライン学習支援システム」導入のねらい

- ・情報教育の成果を定着させ、学生が学びしやすい環境を構築すること(学び環境の整備と充実)
- ・各教員の教材の開発や提示に関わる作業の効率化を図ることにより、新しい着想による教材や指導法の開発を生み出すことができるようにすること(教育環境の整備と充実)
- ・煩雑な作業が伴ってきたこれまでの教務事務等を効率的に実現することにより学部教育の管理運営事務の向上を図ること(教務事務環境の整備と充実)
- ・学部専門教育の地域への公開(開かれた大学づくり)



<http://souls.cc.kochi-u.ac.jp/>

B：SOULSの特長

情報発信の簡便さ：ブラウザ主体の情報更新

- ホームページ作成の知識を必要とせず簡単にウェブ上で情報発信することができる。(文字や音声、静止画像、動画などの掲載、掲示板、アンケートフォームの作成)情報を更新したページは「更新情報」としてトップページにそのリンクが表示される。

ダイナミックなコミュニケーション活動

- 誰に対して、いつまで掲載するかを指定して情報掲載できる。
- 教員と担当授業と受講生が履修登録データに基づいてシステム上で関連づけられている。任意のグループを作成して閲覧制限することができる。
- 学部の全構成員(学生と教員)が様々な形(授業別、ゼミ別、任意グループ別など)で関連づけられるため、クローズドな「専用掲示板」での教員と学生、学生同士の様々な「関わり合い」が実現できる。
- ゼミナール等のクラス分けのための煩雑な作業もすべてネット上で実現できる。教員はゼミのシラバスを掲載する。学生はそのシラバスを閲覧して希望のゼミを申請する。希望申請に応じてクラス分けし結果を学生に通知する。

3. SOULS活用で「学び」の再構築

(1) 授業づくりの視点

A：学びの共同体の構築 他の学生の考えを聞き、共感したり、論じ合ったり、支え合いながら自己の「学び」を深められる共同体を構築する。[一方的な知識伝達型授業からの脱却]

B：授業参加意識の高揚 受講学生の考えが授業に反映され、学生と教員、学生間の「関わり合い」が誘発されるコミュニケーション・チャンネルを用意し、授業への参加意識を高める。[学びの主体を置き去りにした授業からの脱却]

C：学習サイクルの形成 「予習—授業—復習(発展学習)」サイクルを確立し、授業での学習と授業時間外での学習がきちんと確立され、より質の高い「学び」を実現する。[授業外学習の量的・質的変革]

(2) 活用例

A：意見交流(事前・授業・事後) 掲示板

●K先生の授業(3年生専門ゼミナールでの活用)：情報共有、学習過程の確認

それぞれが、今日の授業の課題資料について、感じたことや意見を事前(授業時間外)にアップする。授業では、それをもとに対面で議論を交わす。議論から生まれた新しい発想や疑問は、適宜SOULSに掲載する。議論が深まり、SOULSに資料として蓄積される。

受講学生の声：○ネット環境があれば場所、時間を選ばない。○掲示板だと他の人の意見も見やすい。○人の提出した意見がすぐに見ることが出来る。○人と意見がかぶったときに、ちょっと自分は違う視点から見てみようと思ったりする。○レジュメを印刷する手間とコストが省ける。

●N先生の授業(1年生の共通教育「日本語技法」での活用)

掲示板を利用してディベートの学習(3時間)を行う。中級程度の非日本語母語話者と日本人母語話者を含んでおり、スムーズな口頭での練習は困難であった。「第二言語の学習は必要か」などのテーマで肯定派と反対派に分かれ、「立論-反論-主張-反論」という構成で、交互に主張を掲示板に掲載した。人前で発表するのが苦手な学生も、緊張せずに、意見の交換ができること、口頭で個人個人が発表すると、長い時間を要するが、複数の意見を同時に掲載したり、閲覧したりできるので、授業内で考える時間を長くとれるなど、SOULSの活用は有効であった。

B：学習課題の相互評価 アンケート・フォーム、掲示板

●私の授業(2年生基礎ゼミナールでの活用)：プレゼンの相互評価

授業専用のページ(アクセス制限機能)にプレゼンの評価観点に応じた「アンケート・フォーム」を用意して、相互評価する。送信データはエクセルに自動的に集計され、教員が一部データを整理して(評価者名の削除など)掲示板にその結果をフィードバックする。各学生は自分の評価シートをみて自分の良い点・課題点を把握して今後のプレゼン向上に参考にする。

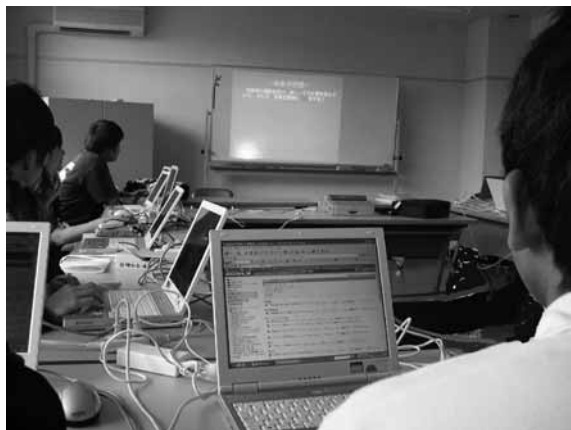


写真1 プレゼンの相互評価

C：予習・復習の充実 掲示板、ブログ式ページ

●U先生の授業(2年生以上の専門授業)：予習中心型、学習の軌跡

日本語学概論では、当初は復習や講義の補足や追加事項の掲載にSOULSを使い始めたが、学生から予習資料の掲載希望が出て予習中心型に転換した。それにより学生は講義で行う発音練習などの課題を事前に練習することが可能となり、授業の質に変化が現れた。その結果、期末試験も好成績をおさめた。毎回掲示板を丹念にチェックして講義に備え、しかも復習のために何度も見ることが出来る利点を受講者たちが習得できた。教科書も1枚のプリントも使用せず、すべて掲示板で行えた授業である。学生からは就職活動などで欠席する場合であっても授業の内容がすぐに理解できて遅れが挽回できるという声も聞かれた。

●S先生(2年生以上の専門授業)：学習内容の確認・発展学習型

授業内容に関して学生は様々な疑問をもっている。しかし、授業時間内でそれらすべてに解決することは不可能である。そこで対応できなかった学生の質問に対して事後に回答するのにSOULSを活用している。アクセス数の伸びており、学生から好評を得ている。

Q：存在しないはずの「景初4年」を記した鏡が流通して良いのですか？(I. S. さん)

A：鋭い質問ですね。実はそうした資料を1つの根拠にして、「三角縁神獣鏡日本製説」が展開されています。

つまり、景初4年銘鏡は改元のあった中国(魏)で作られたはずがない→中国から遠くて改元の事実が伝わらない(または伝わるのが遅い)日本で作られたという説です。ですが、魏の工人が誤って記入したとも考えられるので、三角縁神獣鏡が魏鏡であるか倭鏡であるかは、景初4年銘鏡だけでは決着はつきません。

●私の授業(2年生以上の専門授業)：学習内容の確認・定着(詳しくは発表時に紹介する。)

4. 成果と課題

学部授業でのSOULSの活用は徐々に広まりつつある。そして上記のような具体的な成果も現れてきている。しかし、学部教育全体を見ると、その活用は依然十分とは言えない。さらに活用の輪を広げて行くのが今後の課題である。